

成蹊学園 広報



2009
Spring
vol. 73
SEIKEI GAKUEN

蹊

Series 成蹊教育を知る

アスファルトで堅められた一般学校の校庭、そこには草木の緑も見ることが出来ず、教室に入っても白い壁やエローオークルの床の外に何の懐かしい色もない無趣味の室で育てられる都会の子弟は、成人の後、朝暁の美しさも知らず夕陽の尊さにも気付かない味のない人間に育て上げられるのではありますまいか。(校長・中村春二)

東京郊外、北豊島郡高田村の地に成蹊小学校は誕生しました。一九二五年四月のことです。最寄り駅は山手電車(現JR山手線)池袋。通学路を進むと畑の中に学校の建物が見えてきます。瓦葺き木造平屋建ての校舎です。昇降口を上がると真っ直ぐに廊下が伸び教室が六つ並びます。昇降口の右には教員室と応接室がありました。

小さな校舎でしたが、それはある考えのもとに建てられました。

南北に長い日本列島。東北地方の学校は冬の寒さから南側に教室を設け北廊下とし、日差しが強く台風が多い九州や四国では南側を廊下とし北に教室を配置しました。やがてこの南北廊下をめぐる建築衛生の面で議論が起りますが、一九〇一年、文部省が北廊下・南側教室を推奨したことで、ほとんどの学校が北廊下を採用するようになりました。

しかし成蹊小学校は南側に廊下を設けました。東京府からは従来まれにみる校舎と言われましたが、それは直射日光が及ぼす近視の害を説いた、海軍軍医で男爵の高木兼寛の意見によるものです。もちろん廊下や教室に窓を設け、室内に光が充分差し込むよう配慮されていました。教室の後ろには子どもたちが自由に使える黒板も用意されました。廊下にある三か所の出入口からは校庭に出ることができます。春には芝生が緑を増

体と心を育む 一学校環境の大切さ一

シツジが咲き、前庭の田んぼにいろオタマジャクシや小エビは理科の実物教育となりました。築山は絶好の遊び場です。夏は広い校地のあちこちに雑草が茂り、子どもたちは草取り作業に励みます。日吉と滝川という名の二匹のブタも飼育されていました。秋には子どもたちが育てたコスモスが咲き乱れます。その花は図画の時間に二つずつ配られ写生の材料となりました。冬は寒風の中、鬼ごっこに風揚げ、雪の日は先生も一緒に雪合戦です。

子どもたちの体と心の健やかな成長を思い、学びの環境を整えられました。その考えは二〇〇八年七月完成の小学校新校舎にも継承されています。光を取り入れた明るい教室、芝生の屋上庭園、川を再現したビオトープ。学校でのさまざまな体験、知識、刺激。それは将来にわたる人間形成へと繋がっているのです。

(成蹊学園史料館 保延有美)



(写真)開校間もない頃の教室風景

Contents

- 2 理事長就任のごあいさつ
- 3 新年度のごあいさつ(学長・校長)
- 6 「成蹊教養カリキュラム」スタート
- 7 桃李の人々(石田衣良)
- 10 成蹊教育のいま(木下英樹)
- 11 大学の近況
- 12 中学・高等学校の近況
- 13 小学校の近況
- 14 募金局だよ
- 17 学園トピックス
- 18 2009年度事業計画・予算の概要
- 19 2009年度入学試験結果
- 20 成蹊教育を知る

学園創立100周年に向けて 新年度のごあいさつ 成蹊学園の新たな歩み



インタビュー
桃李の人々

作家
石田 衣良

建前の多い複雑な社会だからこそ
さまざまな現象や事件の
「裏を見る眼」を学生時代に鍛えてほしい



成蹊学園広報

2009年4月1日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422) 37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp



理事長就任の

ごあいさつ



この度、岸曉前理事長の後を受けて成蹊学園理事長に就任いたしました。

岸前理事長は、卓越した識見と高潔な人柄を兼ね備えられ、二〇〇二年二月に理事長に就任されて以来、今日まで、そのすぐれた指導力のもとに、次代を見据えた学園づくりのためご尽力されてきました。なかでも、二〇一二年の学園創立一〇〇周年に向けて進められてきた「新・成蹊創造プラン」は、学園のビジョンとその実現へ向けてのグランドデザインを示すものであり、私もまたその考え方をしっかりと継承し、学園のさらなる発展のため、全力を尽くす所存であります。

一九一二年、創立者中村春二先生は新たな教育理念を掲げ、池袋の地に、成蹊学園最初の学校である「成蹊実務学校」を創設されました。中村先生の情熱とこれに賛同された岩崎小弥太、今村繁三両氏の援助のもとで学園の基礎が築かれ、以後九十七年

間、幾多の人々の不断の努力により一貫して「一人ひとりを大切に育てる教育」が継承されております。

その教育の基本方針として中村先生は「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」を掲げられております。「桃李不言下自成蹊」の姿を理想とする、「個性を持った自立的な人間の創造」を目指し、そのための方法として「自奮自励」の精神、すなわち生徒の意欲を引き出すことを第一義としました。創立以来のこの教育理念は、今日の学園の中にもしっかりと息づいております。

目下、学園全体で総力をあげて取り組んでいる「新・成蹊創造プラン」は、こうした教育に対する考え方に根ざしたものであります。

二〇〇四年、学園縦断型の組織である「国際教育センター」の開設と「法科大学院」の開設、さらには大学の経済学部経済経営学科の開設によってスタートした「新・成蹊



理事長

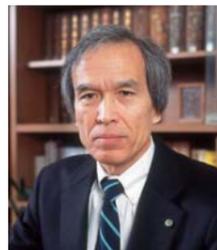
佃 和夫 (つくだ かずお)

【略歴】

1968年3月	東京大学大学院 船舶機械工学専門課程修了
1968年4月 1日	三菱重工株式会社入社
1986年10月 1日	成蹊大学非常勤講師(工学部) (1991年3月迄)
2003年6月 26日	三菱重工株式会社取締役社長
2006年3月 29日	成蹊学園理事 成蹊学園評議員
2008年4月 1日	三菱重工株式会社取締役会長
2009年3月 29日	成蹊学園理事長

新年度を 迎えて

学長・校長あいさつ



成蹊の高い教育力を さらに確かなものに

成蹊大学長

栗田 恵輔 Keisuke Kurita

本年度も多くの優秀な学生を迎えることができました。緑豊かで落ち着いた雰囲気の中のキャンパスは、知的刺激に満ちています。成蹊大学生としての限られた時間を有効に使って、大きく飛躍してくれることを願っています。

新年度にあたり、大学の近況をご報告いたします。

大学の使命と教育目標

混迷する現代において、大学教育の果たす役割はますます大きくなっています。教育の力こそが将来の日本と世界を支えると確信しています。

成蹊大学では、人格、学問、心身にわたってバランスのとれた人材を育成することを目指しており、教育の質を高めるための努力を続けています。その一環として、大学がよって立つべき基本理念などを再確認するとともに、各学部・学科の教育理念、人材養成方針などを明文化しました。

本学に課せられた使命は、「伝統的な少人数教育と人格教育の特質をさらに深め、多くの課題を抱える二十一世紀の社会に貢献する専門性を備えた教養人を育成すること」であると考え、これを達するために、三つの基本的な教育目標を掲げました。

- (一) 多様性を受け入れる豊かな感性と人間性を培う
- (二) 生涯学び続けるための自力学習の基礎をかためる
- (三) 国際舞台でリーダーシップを発揮できる能力を涵養する

さらに、これらの目標を達成するために、「ゼミ指導」、「教養・基礎教育」、「専門教育」、「国際教育」、「キャリア教育」、「海外留学」、「学生サポート」への取り組みに重点をおきます。詳細は、ホームページ上にも公開されておりますので、ご覧いただければ幸いです。

入学試験

十八歳人口の減少と経済状況の悪化により、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています。本学の二〇〇八年度入試の志願者数は二〇〇七年度より約一四・四パーセント増え、約二万三千六百名であり、全国で二十七位でした。発表された三〇位以内は大規模校がほとんどで、本学の募集人数が最も少ないことを考えると、高い評価を維持していると言えます。

本年度入試においても辛い多くの志願者があり、昨年度よりもさらに志願者総数は増えまして、本学に対する期待に応えるため、いっそう気を引き締めて教育と研究に取り組みます。

教育

「専門性を備えた教養人」を育成するために、教養教育の再構築と、専門教育の体系化を推進しています。

ワンキャンパスの総合大学である利点をフルに生かした、学部横断的な「成蹊教養カリキュラム」を来年度から実施します。文理融合教育と英語教育の徹底を大きな柱とし、桃李成蹊科目、日本語科目、キャリア教育科目などを含み、これまで専門科目を担当していた教員も参加します。文系・理系を問わず、学生の知的好奇心を活性化するための、成蹊だからこそできる教養教育です。また、学部の目標に沿って専門科目を体系的に配置する作業を進めており、学士課程教育のさらなる充実を図ります。

就職

世界的な金融危機が、学生の就職にも影響を与えています。昨年度は本学においても内定取り消しの例が出たため、できる限り手厚い対応をしました。本年度の就職戦線は厳しくなると予想されますので、キャリア支援センターが万全の体制で臨んでいます。

しかし、このような厳しい時代だからこそ、「就職の成蹊」が力を発揮するチャンスだととらえています。学生諸君は時代の風潮に流されることなく、主体性をもって行動し、自ら学ぶ習慣を確実に身につけてくれるよう願っています。

社会活動支援

学園創立一〇〇周年記念事業の一つとして設定された「成蹊大学社会活動支援奨学金」は、所期の目的を果たしつつあります。受給団体はまだあまり多くありませんが、教員との連携により活発に活動をしています。社会に向きあう学生の頼もしい姿が、何より印象的です。

学生の社会貢献活動を組織化するため(学長オフィスアワーで学生から要望が出されました)、「学生ボランティア本部」を設置すべく学生有志と協議を進めています。大学としても、学生部長を中心とした「社会貢献活動支援委員会」を組織し、体制を整えます。

学生表彰

学生の学習や課外活動を応援するために、本学には各種の賞が設定されています。例えば、成蹊大学賞は五部門(学術、芸術、スポーツ、文化活動、社会活動)にわたって、顕著な成果をあげた学生に授与されます。昨年は十七名が対象になりました。

そのほか、樺原展示表彰、スポーツ特別奨励表彰、国際研究賞・交流賞、体育会優秀団体賞・優秀個人賞などがあります。多くの分野で表彰の機会がありますので、学生には良い刺激になっています。

大学に求められているのは何よりも高い教育力と研究力です。それと同時に、本学の特質を積極的に外部に発信し、ブランド力をこれまでに以上確かなものにする必要性を痛感しております。今後ともご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



校長に就任して



成蹊中学・高等学校長
両角 雄功 Yuko Morozumi

本 年四月一日付をもって、中学・高等学校の校長に就任いたしました。もとより微力ではございますが、本校教育のため全力を尽くしてこの重責を全うしたいと願っています。何卒、谷正紀前校長同様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

成蹊で過ごした学生時代、そして教員の道へ
私は、小学校から大学まで成蹊で過ごしました。その後、家業、会社勤めをし、二十歳の時に早稲田大学教育学部へ学士入学いたしました。卒業後は早稲田中学・高等学校で五年間、非常勤講師としてお世話になりました。そして縁あって、一九八七年四月に成蹊中学・高等学校に着任し、本年は二十三年目の年に当たります。この間、成蹊学園はめざましい発展をとり、中学・高等学校におきましても中央館、中学校H R棟、高校H R棟、テニスコート人工芝化など、施設環境の整備が着々と進みました。

不変の教育方針、ビジョンのもと 教職員が一丸となって

成蹊学園の建学時からの教育理念は「個性の尊重」、「品性の陶冶」、「勤労の実践」です。これらの人間教育の目標は、成蹊教育の誇るべき伝統であり、不変の教育方針です。そして、その理念を未来に活かすため、「グローバルに認知される教養と個性の育成」、「協調性のある自立精神と自律的行動力の育成」、「知的好奇心と科学的探究心の育成」を教育のビジョンとして掲げております。その実現に向け一貫教育、全人教育、個性伸長教育を三本柱として、教育の自身の一層の充実、教育の枠組みの改革、ならびに教育環境の充実に取り組んでおります。現代社会はグローバ

ル化し、ある意味、不透明な時代とも言われています。そういう時代であるからこそ、中等・高等学校時代には基礎的な学力を元に、物事を的確にとらえ、的確に判断し、行動できる力が必要です。また現在、日本は変革の時代と言われており、今後、社会はいっそう複雑化・多様化するであろうと予想されます。その中で生きていくための力は、中学・高等学校時代に身につけた高い知性と教養と経験を基盤として養われることになると思います。

この多感な時期をどのような環境でどのように過ごすかということが人格形成において重要な意味を持つと考えます。そこで成蹊中学・高等学校では、幅広い分野の学習、多彩な行事、活発な課外活動により、生徒一人ひとりが自らの才能を自覚し、伸ばす環境づくりに教職員全員が力を注いでいます。

教育環境がますます充実

中学校H R棟は一昨夏に完成し、あたたかみと自然感を取り入れ、教室、廊下および生徒ホールを木製フローリングにしました。高校H R棟は昨年十二月に完成し、各階にガラスを多用し開放感にあふれています。廊下にはグラウンドが望めるテラスや生徒同士のコミュニケーションスペースがあり、リフレッシュできる環境となりました。すべての教室にはマルチメディア機器や液晶ディスプレイを備え、多様な教育カリキュラムに対応しております。教室や廊下、トイレなどの照明には人感センサーや昼光センサーを採用し、環境に配慮した機能を備えました。高等学校では二階に高等学校担当の全教員（非常勤講師含む）が利用する職員室を配置し、教員同士、生徒と教員のコミュニケーションも今まで以上に図られるようになりました。また、授業準備や教材研究に専念できるスペースを

設け、教育環境の充実を図っています。三階には進路指導室や面談室、自習室を設け、生徒の自発的な学習意欲の支援や進路相談などをきめ細かく行える環境を整えています。さらに、高校H R棟竣工時には中学校H R棟と高校H R棟が中央館をはさんでひとつにつながりました。

情熱をもって生徒と向き合いたい

中村春二先生は学校というところは、学問をただ受身的に教わる場所ではなく、生徒自らが勉強したいという意欲を起こして学習すべき場所であるとおっしゃっています。これからは成蹊教育の最大の目標である「自奮自発」の精神を養う教育を忘れずに、教職員一同と力をあわせて、これからの未来を担う豊かな人間性と正しい判断力を持った生徒を育成するために、一生懸命情熱をもって指導にあたる覚悟です。

生徒に対しては「挨拶」「はじめ」「身嗜み」の指導を今一度徹底し、「成蹊生だ」と誇りを忘れずに行動してもらいたいと考えます。

教育の役目は学校のみならず、家庭、社会を含めて総合的に見守っていかなくてはなりません。卒業生の皆さま、在校生保護者の皆さまのこれまでに増すご教示ご支援を、切にお願い申し上げます。

成蹊学園に入学されたすべての新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、ご入学にあたり心からのお祝いを申し上げます。

成蹊小学校は、昨年四月から全学年が四学級編成に移行し、二期期からは、明るい日差しと木の柔らかなさにあふれた新校舎で、子どもたちがのびのびと学校生活を楽しんでおります。

待ち望んでいた教育環境が実現しました。

これも、学園創立一〇〇周年記念募金事業をはじめとした皆さまの小学校教育に対する温かいご理解とご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。

公教育としての責任と 私学の独自性の保持

さて、少人数教育を支える環境づくりを整えた小学校は、これらを活かす研究と実践をさらに充実させていく段階を迎えました。

もちろん、これまでも新校舎建設と並行して、四学級編成に対応した運動会や文化祭などの行事のあり方や、新校舎の空間を活用する多様な学習活動の試みなども検討してきました。

しかしながら、二〇〇六年に五十九年ぶりに改正された教育基本法の制定に伴い、国の教育施策が大きな変化の時代を迎え、成蹊小学校も指導方法の充実に留まることなく、少人数教育体制の基盤となる教育課程全体を視野に入れた見直しが必要となりました。

二〇一二年には、昨年公示された改訂小学校学習指導要領が施行されます。これは、初等教育における子どもたちの学習のあり方や学校のありようを見直す中央教育審議会の答申を受けて改訂されたものです。

この改訂に先立って学校教育法施行規則改正では、低学年の週授業時間数や理科・体育などの教科の年間指導時数の増、さらには「総合的な学習の時間」の減など、本校の現行教育課程編成方針とは異なる方向が示されています。



中村春二先生の 100年後を見通した展望

成蹊小学校長
金納 善明 Yoshiaki Kinno

二〇〇二年の本校教育課程改訂に際して全学年実施に踏み切った「こみち科」と「英語科」は、学園二十一世紀構想の「個性を持った自立的な人間の創造」に直結する教科であり、小学校が目標とする「自立・連帯・創造」の子ども像に関わる教育課程の目玉でもあります。

「学校評価」公表への積極的な姿勢

小学校では、これまでも、さまざまな場で教育活動の現状をお知らせしてきました。授業参観、保護者会、各種通信、学校からの印刷物、HPなどがそうですし、PTA常任委員会・役員懇談会などでは、行事や安全対策などを中心に学校運営についての意見交換も行ってきました。

しかしながら学校評価そのものを公表・公開することにについては、必ずしも積極的ではなかったと思います。

ただ、学校評価そのものに今まで無関心であったかというところはありません。

私立小学校は、もともと入学試験という重大な「学校評価」に日頃から晒されている学校です。ですから、学校説明会や教育行事の一般公開などで現実の教育活動を積極的に情報公開し、志願者を募ってきたという経緯があります。さらには、学校評価の公開というとき、教育活動を項目化して個々に数値評定をし、集計・公表する

という作業が真の学校評価の公開といえるのかどうか、そこにはまだ検討の余地もあります。

いづれにしても、少人数教育の実践の成果をさまざまな立場の方々に関心かけ、それをまた公表して次の実践につなげていくという評価のサイクルは大切な教育活動であると考えます。

「伝統に立脚し、未来を考えよ」

これは「人間中村春二伝」（中村浩著）の「中村春二言行録」の中にある言葉です。

春二先生が常に教え子たちに語られた言葉のいくつかを紹介して「その教育の真髄を理解する一助としたい」と、中村浩氏は書いておられます。私塾「成蹊園」から二十年足らずで中村先生はお亡くなりになりました。成蹊小学校設立から数えても存命されていた期間は僅か十年という草創期の成蹊学園で、中村先生が「伝統に立脚し…」と、すでに百年後の今を見通すかのように語られていることに凄みさえ感じます。

私も成蹊小学校は、創立者が指し示した百年後の展望をしっかりと受け継いで、少人数教育を支える新しい教育課程の創造に心を尽くしたいと思います。

本年度も、小学校教育に対する皆さまの変わりないご支援を、心よりお願い申し上げます。



テニスサークルでの活動が
 学生時代の一番の思い出
 —まず、成蹊大学に入学されたきっかけから教えてください。
 石田 実は私、大学進学に対してそれほど意欲的ではなかったんですよ(笑)。高校時代はとも生意気な生徒で、大学に行かなくても、自分自身の力でいくらでも学ぶことができると思っていました。そのため、ほとんど大学について調べていませんでした。私がそんな調子でしたから、心配した母親がいろいろと情報を仕入れてきて、成蹊大学はアットホームな雰囲気だし、就職にも強いのでどうかと勧められ、受験することになりました。

作家
石田 衣良

Ira Ishida
 『池袋ウエストゲートパーク』や『4TEEN【フォーティーン】』など、現代を生きる若者の姿を生き生きと描いた作品を、数多く生み出している直木賞作家・石田衣良さん。自由を謳歌したという成蹊大学時代の思い出とともに、困難な時代に直面している若者たちへのメッセージを語っていただきました。



—実際に、入学されてみての印象はいかがでしたか。
 石田 母親が話していたとおり、ゆったりとした雰囲気、のびのびと学生生活を送ることができました。大学生とは、こんなに自由なものかと思いましたね。特にうれしかったのは、好きな本をたっぷり読める時間があったこと。そんなわけで、あまり勉強はせず成績は最低。結局単位不足で一年留年し、五年間、大学に通いました。
 —学生生活で思い出に残っているのはどんなことですか。
 石田 テニスサークルの仲間たちとの交流です。「ホワイトエレファント」というサークルに入っていたのですが、テニスをするだけでなく、皆で飲みに行ったり、ディスコで踊ったり…。私はそれまで独りでいることが多く、グループで行動する機会があまりなかったのですが、集団行動の楽しさを実感しました。サークル仲間とは、今でも時々連絡を取って、会っています。友人の子どもが

—作家への道を意識されるようになったのは、いつ頃からですか。
 石田 作家になりたいと思ったのは、かなり早く七歳の時でした。その気持ちはずっと持ち続けていたのですが、大学を卒業する頃は、小説家としてやっていくのはとても無理だろうと思っていました。

**建前の多い複雑な社会だからこそ
 さまざまな現象や事件の
 「裏を見る眼」を
 学生時代に鍛えてほしい**
 『池袋ウエストゲートパーク』のファンだと聞いて、時の流れを痛感したこともあります。直木賞を受賞したときも、祝賀会を開いてくれました。
 —キャンパスで一番好きな場所はどこでしたか。
 石田 やはり櫻並木ですね。天気の良い日には、サークルの仲間とテニスのラケットでボレー・ボレー(ノーバウンドでボールを打ち合うこと)をしていました。今でも時々、あの頃を懐かしく思い出します。いい時代でしたね。

2010年度 「成蹊教養カリキュラム」開始

文理融合の幅広い教養と、確かな英語力を身につけるために。



全学教育委員会 委員長 (2008年度)
 坪村 太郎

成蹊人として築くべき「豊かな人間性」と「自力教育の基礎」

「成蹊教養カリキュラム」 基本コンセプト

本学を卒業する学生が持つべき教養とは何かをこの三年間徹底的に議論した結果、「成蹊教養カリキュラム」が構想されました。二〇一〇年度以降は、学部間の垣根を取り払い、すべての入学生が同じ教養カリキュラムの科目を勉強することになります。この科目に各学部固有の科目を接続することで、四年間の教育の完成となります。
 このカリキュラムの目標は、本学園の基本理念の一つである個性の尊重と人格の陶冶による豊かな人間性と、自力教育の基礎を築くことです。豊かな人間性は、新しい文化の創造の担い手として社会に貢献していく人材につながります。また、自力教育については、中村春二先生は一九一七年の成蹊実業専門学校設立趣旨において、「社会活動の為の教育は他力教育なるべからず。自ら苦しみ自ら啓発する自力教育ならざるべからず」と言っています。現代の若者に求められていることは、まさに自らの問題意識に基づいて自ら考え抜いていくことであり、社会の一員として自立していくための必要な基礎力を身につけ、卒業後も自己学習が可能な人材を育成することが本学の使命でもあります。

- 1 充実した英語教育**
 すべての学生に英語八単位(必修)を体系的に学習させ、社会で使える英語を身につけさせます。
- 2 文系理系の枠にとらわれない多元的な視点の養成**
 ワンキャンパスの利点を今こそ活かして、どの学部の学生であっても一定の水準まで修得していくことが望ましいと考えられる共通の科目を配置します。
- 3 社会人として必要なコミュニケーション能力の涵養**
 一年次のゼミを全学生に対して必修とし、自己を表現し、他者を理解する力を養います。また日本語力科目を配し、専門分野を学ぶ上で、また社会人として必要な日本語リテラシー能力を磨きます。
- 4 コア科目と発展科目の設置**
 教養科目として重要な科目を「コア科目」としてそれぞれ複数クラスを開設し、中核の科目としました。さらに勉強したい学生のために豊富な「発展科目」を用意します。

充実したカリキュラムの構築に向けて
 成蹊教養カリキュラムは、左に示すような体系となっています。成蹊の建学の理念と関連する内容を「桃李成蹊科目」として特別な科目区分を設け、他の科目区分については、二つの系統と二つの群を組み合わせた構造としました。人間形成系統は、自立的な社会人として力強く生きていくために必要となる基本的な技能や考え方に熟達することを目的とする科目。文化創造系統は、洞察と思索に基づいてさまざまな問題に対して熟考する姿勢を養うことを目的とする科目です。成蹊教養カリキュラムの科目から三十四単位(理工学部は三十単位)を修得することが、卒業に必要となります。この教養カリキュラムの上に各学部の専門科目がスムーズに接続されるように、各学部の科目も見直しがなされています。このカリキュラムの運用によって、本学の教育がいつもより充実したものになります。

成蹊の特色 (理念、歴史、教育方針など)		
● 桃李成蹊科目		
● 日本語力科目 ● キャリア教育科目 ● 情報基盤科目 ● 健康・スポーツ科目	● 総合文化科目 人間と文化 社会と文化 科学技術と文化	社会性を 育成する ための科目
● 英語科目	● 国際理解科目 初修外国語・ 異文化理解科目 国際教養科目 実践国際理解科目	国際性を 育成する ための科目
人間形成系統	文化創造系統	

——一九九七年に『池袋ウエストゲートパーク』でオール読物推理小説新人賞を受賞し、作家としてデビューされたわけですが、何か小説を書くきっかけとなった出来事があったのでしょうか。

石田 フリーランスのコピーライターをしていた三十六歳の時、たまたまコンビニで読んだ雑誌の星占いに、「おひつじ座生まれはこれから二年間は厳しい。ただ、その間にコッコツと自分の長所や能力を結晶化できるよう、真剣に仕事に取り組めば、その後がとてもうまくいく」と書かれていたんです。それまでは広告代理店や広告制作会社で勤めた経験を活かして、小さなプロダクションをつくろうと思っていたのですが、この占いを見て、自分を結晶化させるには、会社を興すより、好きな文章を書くべきだと思い、小説を手がけ始めたのです。

——その時点で、作家を職業としていこうと決意されたわけですか。

石田 いえいえ。初めから作家として食べていけるとはまったく思っていないませんでした。書き始めて五年くらい経ったら、どこかの出版社の編集部につてができ、たまに短編を持ち込んで、それが掲載されれば御の字だ……。ですからその後、自分の書いた小説で推理小説新人賞はもとより、直木賞まで受賞できると思いはりませんでした。本当に運が良かったですね。

今の時代に起きていることを描いていきたい

——石田さんの小説では、いじめ、ドメスティックバイオレンス、リストラ、オタク文化、ハッカー、デイトレーダーなど、今の時代を象徴するような出来事や現象が描かれていますね。

石田 小説は英語で「ノベル(Novel)」と言いますが、ノベルとは、もともと西洋のかわら版のようなものだったのです。どこかの場所で起きたスキャンダルが小説に書かれて、ヨーロッパ中に広まっていく。例えば、ドストエフスキーの「罪と罰」の主人公ラスコリニコフのような学生が、当時のロシアに実際にいたという記録が残っているそうです。そうしたノベル本来が持つ機能や役割を活かすためにも、今、目の前で起きている出来事を描いていきたいと考えています。



大学はもっと教養教育に力を入れるべき

——石田さんは、現代の学生像をどのように捉えていらっしゃいますか。

石田 今の若者たちは幼いころから世代間の競争にさらされ、常にランク付けされているので可哀想だと思います。新卒採用で外れてしまうと、正社員への道が閉ざされてしまう社会のあり方に大きな問題があることも事実です。

もともと、そうした事情を斟酌しつつも、あまりにも知識が通り一遍で、自分自身でテーマを決めて、自分自身で学ぶ姿勢が身につけていない学生が多い気がします。それに、社会人として当然求められる基礎的な教養がない。教科書はよく読んでいても、どのジャンルでも最低限必要とされる書物にはほとんど目を通していません。

——成蹊大学でも、基礎的な教養を身につけることが重要だということで、今、学長を先頭に学部間の垣根を越えた本学ならではの教養教育の構築に取り組んでいます。

石田 それは素晴らしい。社会でいい仕事をしている人は皆、基礎的な教養や倫理観を備えていますからね。最近の大学では、経済・法律などの実学がどうしても重視されがちですが、もう少しゆとりが必要だと私は思います。私たちは効率を追い求めるあまり、どこかで道を間違

——登場人物、特に若者たちが生き生きと躍動しているのも、石田さんの小説の大きな特徴ですが、若者の生観察などはよくなされているのですか。

石田 それほどよく見ているわけではありません。ただ、純文学のように、主人公が自分とは何か、どう生きるべきかなどとクヨクヨ悩んでいるのは性に合わない。ですから、私の小説ではどうしても登場人物を動かしてしまおう。登場人物にも、積極的に動いているいろいろなことを見たり、トライしたりして楽しんでもらいたいのです。

——池袋や月島など、街の持つ独特の雰囲気や空気がダイレクトに伝わってくるのも魅力だと思います。

石田 自分の慣れ親しんだ街、自分にとって身近な街を舞台にすることが多いからでしょうか。映画でも、ストーリーがよくできていて、登場人物が魅力的でも、背景や自然のショットなどがよくないとガッカリしますよね。そうならないように、小説の舞台になる街もきちんと描きたいという思いがあります。いずれは、成蹊大学のホームグラウンドである吉祥寺についても、小説の中できちんと描きたいと思っています。私の学生時代とはすっかり様変わりしましたが、商店街やデパートなどは相変わらず人通りも多く、元氣だし、何より緑に囲まれており、暮らすには最適な環境だと思います。

社会人になることを悲観する必要はまったくない

——作家という仕事をされている中で、成蹊大学で過ごしたことがプラスになっていると感じられる時はありますか。

石田 私にとって、学生時代は社会に出る前の執行猶予期間のようなものでした。豊富な時間を自由に使うことで、興味の枝葉を多様に伸ばせたことが、小説を書く上で財産にもなっています。

ただし、実際に社会に出てみると、社会の方がずっと楽しいということも分かっています。自分の果たすべき仕事や役割さえきちんとこなせば、後は何をしようとして自由ですか。それに、さまざまな職業の現場には素晴らしい人たちがたくさんいて、そういう人たちから得られるものも大きい。だから、今の学生たちにも社会に出ることを恐れたり、悲観したりする必要はまったくないと言いたいですね。

——とは言っても、ある程度自由な立場の学生が、社会人の良さ、素晴らしさを理解するのはなかなか難しいのではないのでしょうか。

石田 確かに、仕事に追われ、毎日遅くまで残業をしている今の日本の大人たちを見ていると、悲観してしまうかもしれません。大人たちが生き生きと生活している姿を見せるためにも、社会の構造を根本から変えていかなければならないでしょう。

興味があったので、自力で株式相場のことを勉強しました。ふつうの会社員にはなりたくないし、なれないだろうと思っただけでしたから……。それから新聞の経済面や経済誌、経済の専門書なども読みまわりました。そのうち、株の流れや金融のシステムがだんだん頭に入るようになり、学ぶモチベーションも上がっていききました。

——老紳士と就職浪人の青年が手を組んで、大都市銀行に翼をしかける、石田さんの作品「波のうへの魔術師」を地で行ったようなお話ですね。

石田 あの作品は、まさに自分自身の行動をそのまま書いたものです。私にとっでは、大学時代に株式相場を勉強したことが、社会を自分なりの眼で分析する上で非常に役立つと感じています。学生たちにも、四年間のうちに、何らかの形で物事の本質を射抜く力を必死になって鍛えてほしいですね。

——最後に、今後の成蹊学園に望むこと、後輩に対するメッセージなどがありましたらお願いします。

石田 ゆったり、のびのびしたところが成蹊学園の良さです。これからもあまり時代の動きに左右されず、動くべき時には本気を出す、そんなポジションでほしい。また、学生たちには、とにかく思い切りキャンパスライフを楽しんでほしいと思っています。



石田 衣良 (いしだ・いら)

1960年、東京都生まれ。1983年、成蹊大学経済学部経営学科卒業。広告代理店、広告制作会社でコピーライターとして活躍した後、フリーランスのコピーライターに。1997年、『池袋ウエストゲートパーク』でオール読物推理小説新人賞を受賞して文壇にデビュー。2003年、『4TEEN【フォーティーン】』で第129回(2003年度上半期)直木賞を受賞。2006年、『眠れぬ真珠』で第13回島清恋愛文学賞受賞。同年、映画『LOVE MY LIFE』にも出演した。『婚年』『骨音』『電子の星』『波のうへの魔術師』『アキハバラ@DEEP』『スローグッドバイ』『LAST』『東京DOLL』『40翼ふたたび』など著書多数。

大学の近況

2008年度 成蹊大学賞・特別奨励賞 受賞者一覧

部門	団体名・個人名	表彰理由
●成蹊大学賞	学部部門	渡邊 大 (工学研究科後期3年に07年度在籍) 世界各国の自動車業界専門家間で広く購読されている自動車業界雑誌である「AutoTechnology」の表紙記事に研究内容が採用されたことを評価した。
	スポーツ部門	光永 桂子 (文学部現代社会学科2年) 4年に一度のアルティメットの世界一を決定する最も権威ある世界大会でアンダー20の女子選手の一員として出場し、金メダルを獲得したことを評価した。 岡野 彩 (体育会ライフセービング部所属) 日本一を決める大会と学生日本一を決める大会で優勝し、日本代表の女子チームに選ばれ国際大会で準優勝したことを評価した。 飯田 彦彦 (理工学部物質生命理工学科3年) スノーボードの日本一を決める大会で上位入賞し、プロツアーへの特別参加資格を得たことを評価した。
●特別奨励賞	学部部門	ロボティクス研究室 <グループで表彰> 鈴木 翔 (工学研究科前期2年) 野田 雅幸 (工学研究科前期2年) 電気学会産業応用部門大会で「YPC優秀発表賞」を受賞したことを評価した。 堀 友哉 (工学研究科前期2年) 5th Asian Symposium on Ecotechnologyで「ポスター賞」を受賞したことを評価した。
	学部部門	統計学研究室 <グループで表彰> 三上 智之 (理工学部情報科学科4年) 市川 緑 (理工学部情報科学科4年) 平野 智子 (理工学部情報科学科4年) 学生の研究助成を目的とした論文に応募し、SPSS (統計ソフト) 研究奨励賞の「SPSS賞」を受賞したことを評価した。
スポーツ部門	平田 祐美子 (文化会競技ダンス部所属)	スローフォックストロットの部第5位、ワルツの部第6位、タンゴの部第12位となり、競技ダンス部の一部昇格に貢献、全日本大会への出場権を得て、最終予選まで進出したことを評価した。
	橋爪 洵 (体育会ラクロス部所属)	国際親善試合に出場して勝利し、日本代表選手としてカナダで開催された国際大会に出場して7位に入ったことを評価した。
	木村 龍志 (体育会ラクロス部所属)	国際親善試合に出場して勝利し、日本代表選手としてカナダで開催された国際大会に出場して7位に入ったことを評価した。
文化部門	文化会英語会 <グループで表彰> 木口 はるか 渡辺 佑介 各大学で選抜され、年間の1位を決める大学対抗英語ディベート大会で上位入賞したことを評価した。	
社会部門	体育会自転車部 <グループで表彰> 吉田 史明 永井 健 ソコボ共和国で自転車組み立ての技術指導員を養成するために職業訓練内容の策定と受講生のトレーニングのボランティア活動に貢献したことを評価した。	

2009年度 学年暦

行事	大学	法科大学院	行事	大学	法科大学院
入学式	4月3日(金)	4月3日(金)	四大学運動競技大会	10月16日(金)~10月18日(日)	
オリエンテーション	3月30日(月)~4月7日(火)	4月4日(土)			10月12日(月) 11月3日(火)
健康診断	4月1日(水)~4月7日(火)				11月23日(月) 12月23日(水)
前期授業開始	4月8日(水)	4月6日(月)	後期祝日授業日	10月12日(月) 12月23日(水)	1月11日(月)
前期祝日授業日	4月29日(水) 7月20日(月)	4月29日(水) 7月20日(月)	検察期間	11月20日(金)~11月23日(月)	
月曜日不足分授業日	5月23日(土)		補講日	12月5日(土) 1月14日(木)	1月21日(木) ~1月27日(水)
学内陸上競技大会	5月29日(金)		火曜日不足分授業日	12月19日(土)	
学内競漕大会(レガッタ)	6月25日(木)		月曜日不足分授業日	12月24日(木) 1月9日(土)	
補講日	6月27日(土) 7月4日(土) 7月18日(土)	7月20日(月) ~7月25日(土)	冬期休業期間	12月26日(土)~1月6日(水)	12月24日(木) ~1月6日(水)
火曜日不足分授業日	7月11日(土)		後期授業再開	1月7日(木)	1月7日(木)
最終授業週	7月20日(月)~7月24日(金)		最終授業週	1月18日(月)~1月22日(金)	
前期授業終了	7月24日(金)	7月18日(土)	後期授業終了	1月22日(金)	1月20日(水)
前期期末試験	7月25日(土)~8月3日(月)	7月27日(月) ~8月8日(土)	後期期末試験	1月25日(月)~2月1日(月)	1月28日(木) ~2月6日(土)
夏期休業期間	8月4日(火)~9月23日(水)	8月9日(日) ~9月23日(水)	春期休業	2月2日(火)~	2月7日(日)~
夏期集中講義期間	9月7日(月)~9月11日(金)		学位授与式	3月19日(金)	3月19日(金)~
後期授業開始	9月24日(木)	9月24日(木)			
学位授与式	9月26日(土)	9月26日(土)			

※ 11月12日(木)は今後「天皇即位20周年記念日」として祝日になる可能性があります。祝日となった場合も授業を行います。

成蹊大学賞 表彰式

本学では、学術、芸術、スポーツ、文化活動、社会活動の各分野で他の学生の範となる活動を行い、優秀な成果をあげた個人および団体に日頃の努力を称え、「成蹊大学賞」を授与しています。

厳正なる審査の結果、二〇〇八年度成蹊大学賞を左記の方々が受賞されました(受賞者の学年は受賞時の学年です)。

表彰式は、十二月十八日、五号館一〇二教室において行われ、学長より賞状と副賞として金一封が贈られました。



前期公開講座のご案内

本学では、年二回公開講座を開催しています。

講座テーマ「環境」

第一回 五月三十日(土)
第二回 六月六日(土)
第三回 六月十三日(土)
第四回 六月二十七日(土)

【会場】 八号館一〇二室(各回共通)
【時間】 十三時三十分~十五時三十分(各回共通)
【参加方法】 事前申込は不要です。どなたでも参加できます。当日会場へお越しください。
<http://www.seikai.ac.jp/university/kouza/default.htm>

成蹊 教育のいま No.08

成蹊の“学び”をレポート



小学校

小学校での情報教育



情報教育
きのした ひでき
木下 英樹
小学校教諭

1988年4月兼任
理科専科を経て学級担任。現5年北組担任。
総務主任、算数科担当。

小学校のパソコン導入の変遷

児童用のパソコンが導入されたのは平成十一年度のことですから、もう十年になろうとしています。当時は各教室にLANを引き、Windows2000 ProfessionalをOSとしたパソコンを全学年の普通教室と、各専科教室に一台ずつ導入しました。学園情報センターの支援のおかげで常時接続のインターネット環境が普通教室でも構築できたのは、パソコンルームが主流の当時としては画期的なことでした。

導入にあたっては「本」のような使い勝手を目指して行きました。教室には学級文庫がありまることができました。それと同様にパソコンでも調べられる環境にしたかったのです。パソコンからは電子辞典を閲覧し、映像と音声で調べることが

情報教育で大切にしたいこと

学校で情報を得ようと思うとき、児童が真っ先に向かうのは図書館です。図書館の蔵書は教員が選んでいるのですから、教員の目でフィルタリングされた本が並んでいるわけです。ですから、本で調べたことがおおむね正しい、誤っていない情報だということとなるのです。ところが、インターネット上の情報は、有害サイトはコンテンツフィルタによって児童のパソコンでは見られないようブロックされているとはいえ、ブログのようにだれもが情報源になり得てしまっている現代では、個人の主張なのか、公共機関や、それに準ずるような情報なのかを見極める力が必要となります。インターネット



パソコンルームでの一斉授業

新しい情報活用方法を学ぶために

簡単に欲しい情報が手に入る時代ですから、大人は情報の渦に子どもたちが巻き込まれないよう守ることが大切です。そういった意味では「与えない」という選択もあるでしょう。

しかし、いざれ巻き込まれてしまうことは否めないのですから、正しい情報を得る、誤った情報に左右されない練習を学校という守られた場の中で積むことは、重要な学びだと考えます。

また、情報を得るだけでなく、児童が自らの情報を発信することもリテラシーを向上させる上では効果的です。

委員活動で発行している校内新聞をより広く伝えるための手段としてのホームページ作成も今後は挑戦させてみたいと構想しています。



ワークスペースでの調べ学習

父母懇談会開催予定のお知らせ

日程：6月13日(土)
**対象：理工学部 3年次生保証人
経済学部 2年次生保証人
文学部 3年次生保証人
法学部 2年次生保証人**

5月に入りましたら、開催日程などの詳しいご案内状と出欠葉書をお送りいたします。ご参加をお待ちしております。

小学校の近況



がんばったマラソン大会

小学校の伝統的な冬の鍛錬行事であるマラソン大会は、一月二十八日から二月二日までに恵まれたコンディションのもとで行われました。マラソン大会に先立っての早朝練習も盛んでした。朝八時には、担任や専科の先生方とともに子どもたちが学園周囲コースを元気に走り出します。寒さをもとめせず多くの子どもたちが半袖短パンの校内着で走る姿も見られました。周回コースは、小学校をスタートして櫻並木を通り、学園正門から桜並木に戻る一周九百七十メートルです。低学年千メートル、中学年千五百メートル、高学年二千メートルのマラソン大会では、多くの保護者の熱心な応援を追い風にして、伴走する教員や走路の安全を確保する事務職員に見守られながら、いずれの学年の子どもたちも見事に走りぬぎました。

高学年の記録には、練習の成果が表れていました。六年では、七分台で走った男子が、昨年五年のときの四名から十四名に増えています。この三年間で最多でした。五年男子も、七分台が九名と好成績でした。最高タイムは今年の六年男子の七分三十二秒九六を上回る七分二十八秒二八で、来年のさらなる成長が楽しみなマラソン大会でした。

シンポジウム「小学校からの英語教育」

二月七日に「清水護英語教育助成資金シンポジウム」が開かれました。今年小学校が当番校となり、国際教育センターの協力を得て実施することができました。

シンポジウムは、標題のテーマのもとに行われ、宮脇俊文教授（経済学部）の基調講演に続いてのパネルディスカッションでは、桂雄二郎教諭（成蹊小学校）をコーディネー



第九十三回卒業式

三月十七日に、本館改修工事にもなって新装した学園大講堂で、小学校第九十三回卒業式が行われました。

証書通し番号は、九八七七番から一〇〇〇〇番でした。この一万という数字に、改めて創立以来の成蹊小学校の歩みの確かさを感じます。百二十四名の卒業生の前途は洋々です。多くの先輩に続いて、輝かしい未来を雄雄しく切り拓いてほしいと、心から願っています。



ターとして、竹内洋岳氏（登山家）・則安大氏（三井物産）・岡崎啓子教諭（成蹊小学校）、そして宮脇教授も加わっての熱心な討議が展開されました。

基調講演者の具体的で明快な問題提起に呼応して、パネリストの体験談やビジョンも示唆深いものとなり、会場からも現役の小学校英語講師の先生からの発言が続くなど、小学校における英語教育と実社会の英語環境とを切り結んだ有意義な意見交換がなされました。

来場者は六十数名でしたが、英語教育の中小連関など今後の展望に言及する会場からの発言もあり、意義深いシンポジウムとなりました。

演劇部レポート

【多くの人に支えられて】

高校一年 後久まりえ

一月六日、五十回目を迎えた東京私立中学高等学校演劇発表会で、「E・forest・電糸の演劇部の生徒のレポートを紹介いたします。

一月六日、七日に東京私立中学高等学校演劇発表会が開催されました。ここに特別賞を受賞した演劇部の生徒のレポートを紹介します。

演劇部レポート

一月六日、七日に東京私立中学高等学校演劇発表会が開催されました。ここに特別賞を受賞した演劇部の生徒のレポートを紹介いたします。



北海道学習旅行

十二月二十五日から二十八日まで、北海道へ高校二年生の希望者十九名が学習旅行に行きました。冬のコースは「スキー・スノーボードin北海道」です。一日目は札幌オリエンピックで使われた大倉山ジャンプ競技場を見学し、二日目、三日目はニセコでスキーに親しみました。宿舎でも、夜には体験学習として、いももち作りやジャム作りを行い、無事に日程を終え帰京しました。

高校演劇部・特別賞

一月六日、七日に東京私立中学高等学校演劇発表会が開催されました。ここに特別賞を受賞した演劇部の生徒のレポートを紹介いたします。

スキー教室

十二月二十一日から二十四日まで、志賀高原横手山において、中学校一年生・二年生の希望者四十名が参加してスキー教室を実施しました。講習は初心者から上級者まで五班に分かれ、教員と現地のインストラクターの指導で行われました。今年二日目に天候が崩れましたが、概ねコンディションはよく、無事に日程を終了しました。最終日の横手山山頂から見えた富士山は忘れられない思い出となるでしょう。

北海道学習旅行

十二月二十五日から二十八日まで、北海道へ高校二年生の希望者十九名が学習旅行に行きました。冬のコースは「スキー・スノーボードin北海道」です。一日目は札幌オリエンピックで使われた大倉山ジャンプ競技場を見学し、二日目、三日目はニセコでスキーに親しみました。宿舎でも、夜には体験学習として、いももち作りやジャム作りを行い、無事に日程を終え帰京しました。

耐寒健歩会・マラソン大会

二月十七日に中学は健歩会を高校はマラソン

二〇〇九年度入学生のための入学試験は、一月九日の中学国際学級入試を皮切りに二月一日、四日に中学一般入試、十日に高校一般入試、さらに十四日には高校帰国生入試が行われました。

中学一般入試は今年度二年目の二回入試を実施しました。

高校一般入試は昨年に比べ、女子の応募者が減少しました。少子化、私学の男子校・女子校からの共学化や都立高校の復活、推薦入試など厳しい情勢のなかで、今後も成蹊中学・高等学校はその存在と魅力をさらに流布すべく努力を重ねる所存です。

入学試験

この会に参加する機会を与えてくださった創設者の内木先生、審査員の方々、最後まで見守ってくださった先生方、保護者の方々、先輩方、観に来てくださったすべての方に、感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

入学試験

二〇〇九年度入学生のための入学試験は、一月九日の中学国際学級入試を皮切りに二月一日、四日に中学一般入試、十日に高校一般入試、さらに十四日には高校帰国生入試が行われました。



運動部・文化部の活躍

- 中学スキー部（臨時設立）
 - 第21回東京都中学校スキー大会
 - （兼第46回全国中学校スキー大会アルペン競技東京都予選会）
 - 〈大回転〉 瓦井海年（1年）7位
 - 大高裕生（2年）8位
 - 〈回転〉 瓦井海年（1年）7位
 - 大高裕生（2年）9位
 - 〈学校対抗団体〉 団体男子 2位
- 中学美術部
 - 第54回全日本学生美術展（佳作） 五月女由佳（3年）
- 高校スキー部女子
 - 〈大回転女子〉 豊島陽子（1年）
 - 第58回全国高等学校スキー大会東京都選大会（鹿沢スノーエリア）通過
 - 第44回関東高等学校スキー大会（戸倉スノーパーク）出場
- 高校演劇部
 - 東京私立中学高等学校演劇発表会 特別賞

大会を実施しました。中学の健歩会は、西武遊園地駅前の狭山公園を出発し、左手に多摩湖を眺めながら狭山湖一周・約十八キロを歩きました。歩くにはちょうどよい気候のもと、例年より早いペースで進み全員元気に励ましあいながら歩ききることができました。

同日に高校は国営昭和記念公園でマラソン大会を行いました。午前中は風も強く心配しましたが午後には風もやみ、絶好のコンディションで実施することができました。男子は八・五キロ、女子は四・五キロを、昨年度に引き続き参加した生徒全員が完走し、女子は制限時間内に全員がゴールしました。閉会式では校長より男子二十五位、女子二十位までの生徒に賞状とトロフィーが贈られました。今年度は男女ともに上位を一年生が占め、クラス対抗でも五位までが一年生という結果でした。



パソコン・携帯電話からのクレジットカード決済のご案内

パソコン・携帯電話からのお申し込みによるクレジットカード決済で、
寄付をしていただくことができます。

簡単にお手続きできますので、ぜひご利用ください。

※ご利用いただけるのは、i-mode、EZweb、Yahoo! ケータイに対応した機種となります。



1 上の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。
読み取れない場合は bokin@sk.seikei.ac.jp に、直接空メールを送信してください。

2 数秒後にURLが記載されたメールが返信されますので、そのURLにアクセスしてください。

3 「成蹊学園募金モバイルサイト」が表示されますので、お手続きください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

パソコンをご利用の場合



1 成蹊学園トップページ <http://www.seikei.ac.jp> を開き、画面右上にある「100周年記念事業」をクリックしてください。



2 100周年記念事業ページの左下にある「パソコン・携帯電話からの募金のお申し込みはこちら」をクリックしてください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

【ご利用にあたって】

- クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。(法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください)
- ご寄付者名とカード名義人は同一である必要があります。
- ご利用いただけるカードは、DCカード・VISAカード・マスターカードです。

【お問い合わせ先】

成蹊学園
創立100周年記念事業募金局
電話：0422-37-3941
Email：fund@jim.seikei.ac.jp

お知らせ

創立一〇〇周年記念事業局主催 講演会開催

―山本益博氏をお招きして―

成蹊学園では、毎年創立一〇〇周年記念事業の「募金推進の集い」で、講演会を開催しております。今年度は、在校生のご父母で料理評論家として活躍されている山本益博氏をお招きいたします。本講演会は在校生、卒業生、保護者、教職員、旧教職員の方々にも公開いたします。ぜひお気軽に聴講いただきたく、皆さまの参加をお待ちしております。

記念事業局主催講演会

講演者

山本 益博 氏
(料理評論家)

講演テーマ

「そんな食べ方ではもったいない」

日時

5月30日(土)

12:00~12:50 (開場11:30)

場所

学園本館大講堂

【お問い合わせ先】

広報課
(0422) 37-3517



やまもと ますひろ
山本 益博氏

【プロフィール】

1948年東京生まれ。
1982年、「東京・味のグランプリ200」を講談社より出版し、「料理評論家」となる。
2001年「農事功労勲章シュヴァリエ」受勲。
“美味しいものを食べるよりものを美味しく食べる”をモットーに食卓を共にする時間を楽しむ“食時会”や生産者を講師に招いての食材塾を開催、2007年2月に「料理ボランティアの会」を立ち上げるなど多方面で活躍。

【著書】

「至福のすし」[すきやばし次郎]の職人芸術 (新潮新書)
「そんな食べ方ではもったいない!」 (青春新書)
「マスヒロの東京ずばり百軒」 (実業之日本社)
「[3つ星ガイド]をガイドする」 (青春出版社)
「山本益博の厳選! 取り寄せごはん」 (青春出版社)
「マスヒロの東京番付」 (実業之日本社)
「大人の作法」 (KKベストセラーズ) など多数。

学園

成蹊から
お伝えしたいこと

TOPICS

多様な授業形態に対応した 新高校ホームルーム棟が完成

創立一〇〇周年記念事業における施設再開発として取り組みました、新高校ホームルーム棟が昨年末に竣工し、二〇〇九年一月から使用開始となりました。新高校ホームルーム棟は、多様な授業形態に対応するため、各教室に大型液晶ディスプレイやLAN端子を整備し、少人数授業のための分割授業教室や二クラス合併授業のための合同授業教室が用意されました。

生徒の自主性を尊重した教室配置にする一方、生徒と教員の親密な関係を豊かにし、IT環境の整備されたゆとりある教室空間が整いました。



合同教室



高校ホームルーム棟外観



開放感ある階段



大型液晶ディスプレイが設備された教室

「成蹊学園建学の日」地域清掃活動

三月二十三日は成蹊学園の建学の日です。多くの在学生、教職員、卒業生が参加し、凝念、心の力の唱和を行い、吉祥寺の町の清掃活動を行いました。

「枯林忌」を行いました

二月二十一日は創立者中村春二先生の命日にちなみこの日を「枯林忌」としてその遺徳を偲ぶ日としています。

二月二十一日(土)、ご遺族、卒業生、学園関係者で墓参後、学園と成蹊会の共催で「枯林忌追悼会」が先生の墓所近くの巢鴨スポーツセンターで開催されました。

また、学園では毎年村先生および賛助員岩崎小弥太・今村繁三両先生の銅像・レリーフに供花、拝礼しています。小学校では二月十八日(水)に学校桃の会の児童が各銅像・レリーフの清掃を行い、クラスごとに拝礼しました。



学園本館改修について

築八十四年を経た学園本館は、現在、耐震補強・バリアフリー対応・内部改修を目的とし大規模な改修工事を行っています。

耐震補強工事については、構造部分の鉄筋およびコンクリートの徹底的な補強に加え、外壁タイルの浮き等劣化が顕著だったため、全数調査の上で全面貼替えを行いました。入念な色合わせと試作を繰り返し、竣工当時の外壁タイルを忠実に再現した仕上がりとなっています。

一階出入口には車椅子対応のスロープを設置し、自動扉や「だれでもトイレ」を設けてバリアフリー化を高めました。

三階には学園関係者の交流の場として広くご利用いただく目的で、透明なガラス壁の開放的で広々とした談話室を新たに作りました。この隣は、成蹊会の部屋となります。

また、大講堂は多目的な利用を考え、可動式の椅子を配置しました。工事は四月中に完了し、五月の連休明けに引越しをして利用を開始する予定です。



外観



談話室

二〇〇九年度 入学試験結果

2009年3月13日現在

学部学科	入学定員	一般入試							AOマデス入試					
		方式	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	募集人員	志願者	受験者	合格者			
経済学部	経済経営学科	435	E方式	30	1,722	1,674	216	7.8	25	147	142	28		
			A方式※	175	4,364	3,930	501	7.8						
			C方式	30	1,783	1,779	241	7.4						
			S方式	5	69	69	10	6.9						
			計	240	7,938	7,452	968	7.7						
法学部	法律学科	250	E方式	20	760	741	121	6.1	6	56	53	8		
			A方式	100	1,682	1,505	244	6.2						
			C方式	36	1,221	1,219	248	4.9						
			S方式	4	41	41	11	3.7						
			計	140	418	399	64	6.2						
	政治学科	140	140	A方式	50	1,298	1,163	166	7.0	4	45	43	5	
				C方式	24	876	872	160	5.5					
				S方式	2	26	26	5	5.2					
				計	390	246	6,322	5,966	1,019					5.9
				計	390	246	6,322	5,966	1,019					5.9
文学部	英米文学科	120	E方式	6	335	323	50	6.5	6	37	35	6		
			A方式	60	596	521	159	3.3						
			C方式	8	416	416	115	3.6						
			S方式	2	14	14	4	3.5						
			計	83	309	303	32	9.5						
	日本文学科	83	83	A方式	43	619	560	93	6.0	2	8	8	3	
				C方式	8	487	487	76	6.4					
				S方式	2	20	20	3	6.7					
				計	100	377	371	52	7.1					
				計	100	377	371	52	7.1					
	国際文化学科	100	100	A方式	50	707	634	174	3.6	5	46	45	10	
				C方式	7	470	469	100	4.7					
				S方式	2	25	25	6	4.2					
				計	100	636	353	61	5.8					
				計	100	636	353	61	5.8					
現代社会学科	100	100	A方式	48	539	483	117	4.1	6	39	37	9		
			C方式	8	409	409	96	4.3						
			S方式	2	44	44	12	3.7						
			計	403	264	5,730	5,432	1,150					4.7	
			計	403	264	5,730	5,432	1,150					4.7	
理工学部	物質生命理工学科	120	E方式	10	196	182	26	7.0	10	24	21	12		
			A方式	40	579	484	100	4.8						
			C方式	22	775	775	198	3.9						
			S方式	3	65	65	19	3.4						
			計	120	249	238	42	5.7						
	情報科学科	120	120	A方式	40	454	386	102	3.8	10	24	24	11	
				C方式	25	662	661	115	5.7					
				S方式	3	55	55	13	4.2					
				計	120	203	199	41	4.9					
				計	120	203	199	41	4.9					
	エレクトロメカニクス学科	120	120	A方式	40	494	433	95	4.6	10	30	29	13	
				C方式	25	693	692	150	4.6					
				S方式	3	58	58	16	3.6					
				計	360	231	4,483	4,228	917					4.6
				計	360	231	4,483	4,228	917					4.6
大学計	1,588	981	24,473	23,078	4,033	5.7	84	456	437	105				

※経済学部A方式は「地歴公民型」と「数学型」の合計です。

●大学院

専攻名	博士前期課程				博士後期課程				
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者	
経済経営研究科	経済学専攻	6	4	3	2	3	0	0	0
	経営学専攻	10	12	10	9	3	1	1	0
	計	16	16	13	11	6	1	1	0
法学政治学研究科	法学専攻	8	1	1	1	4	0	0	0
	政治学専攻	4	4	4	3	2	2	2	2
	計	12	5	5	4	6	2	2	2
文学研究科	英米文学専攻	8	3	3	3	4	1	1	1
	日本文学専攻	8	10	8	7	4	2	2	2
	社会文化論専攻	8	7	6	4	4	0	0	0
	計	24	20	17	14	12	3	3	3
理工学研究科	理工学専攻	70	98	96	89	10	3	3	3
法務研究科		50	467	432	97				
合計		172	606	563	215	34	9	9	8

●中学校

学年	募集人員	志願者	合格者	
第1学年	第1回	男子約55	362	116
		女子約40		
	第2回	男子約20	505	56
		女子約15		
国際学級(4月期入学)	第1学年	男女約10	54	29
	中2帰国生編入試	若干名	8	3

●高等学校

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	男女約80	262	164
帰国生	第1学年男女約15	32	15
第2学年編入試	若干名	2	1

●小学校

学年	募集人員	志願者	合格者	
第1学年	112	939	112	
国際学級	第4学年	16	31	16

2009年度 事業計画・予算の概要

2009年度予算は、評議員会、理事会の議を経て、第1表および第2表のとおり決定いたしました。

少子化による学校間競争はますます激しくなり、私立学校の経営環境は一層厳しさを増しています。そのようななか、学園では、2012年の創立100周年に向けて記念事業を進めています。2008年度までは、多くの建築計画が同時進行しておりましたが、無事完成に至ることができました。建築計画が一段落したことにより2009年度の収支状況は改善される見込みですが、過去に積みあがった支出超過額を漸減させるため、また、設備投資のための十分な原資をそなえるための不断の努力が必要となります。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態とその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものです。

消費収入の部では、納付金が前年度より4億13百万円減少する見込みですが、これは新入生の納付金について、前年度は実入学者数により補正予算を編成したことによるためです。その他、手数料、寄付金、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は149億43百万円となり、昨年度より3億41百万円減少しています。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額(第1号)、成蹊学園創立100周年記念事業募金から積上げる三菱留学生奨学金基金(第3号)で、その合計額は4億65百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は144億78百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究・管理経費などの消費支出合計は146億13百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額1億35百万円が消費支出超過額となる見込みです。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、予算総額は270億53百万円です。収入の部のその他の収入は、退職金の支払資金および施設の建設や改修の支払資金等に充当するため、過年度に積上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出は、第3号基本金引当資産(三菱留学生奨学金基金)や施設拡充引当特定資産など、計画に基づく資金の積上げです。

2009年度における学園創立100周年記念事業など主な事業計画は次のとおりです。

●400mトラック・ラグビー場の改修

400mトラック・ラグビー場は、小学生から大学生までが利用し、ワンキャンパスを謳う学園の象徴的施設となっております。その利用状況をより高めるため、ラグビー場に人工芝を敷設し、400mトラックはウレタン舗装化いたします。加えて南側にある観覧席を整備し、北側にも観覧席を設置いたします。また、夜間照明も増設いたします。

●国際教育センター

国際教育センターでは、英語教育の可能性を探る試みである「多読教育プログラム」を引き続き進めます。また、大学の長期・中期・短期の留学プログラムのほかに、中学・高等学校でもケンブリッジ大学ペンブルックカレッジやオーストラリアのカウラ高校への短期留学プログラムを実施いたします。

●学園環境の整備

沿道緑化

過去2カ年で中学高等学校の北側から野球場、アーチェリー場、ハンドボールコートまでの沿道緑化が進みましたが、2009年度はテニスコートと卓球場の北側沿道の緑化工事を実施いたします。武蔵野市の都市計画に応じて、コンクリート塀を全て樹木でおおいます。

箱根寮の整備

旧箱根寮の宿舎跡地の東側広場にバーベキューコーナーを設置し、夏の学校などの学校行事やゼミ・クラブなどの合宿時に宿泊者が利用できるようにいたします。また、2009年度は周遊歩道沿いにシャクナゲを植樹いたします。

●奨学金の新設・拡充

2006年度から、優れた成果を期待できる留学生に対する奨学金支給を目的として三菱留学生奨学金制度を新たに設けました。加えて、さらなる奨学金の充実を図るため新たに中村春二記念育英奨学金基金を2008年度に創設いたしました。主に小学校、中学・高等学校の児童・生徒に対する奨学金となります。

●学生指導・支援体制の整備

大学7・8・14号館・情報図書館に設置している情報教育システム、ならびに大学3号館に設置し、語学教育などで利用しているCALLシステムの入れ替えを行います。また、大学4・5号館の視聴覚設備につきましても更新いたします。中学・高等学校では、コンピューターを利用した授業の増加に伴い中高中央館にコンピューター教室を1教室増設いたします。

他には、バリアフリー推進のための大学9号館への自動ドアの設置、野球場の外野フェンスに設置している防護マットの高上げなどを行います。

●環境保全活動の推進

成蹊学園では、2008年10月にISO14001の認証を取得いたしました。2009年度はPDCAサイクルにより、さらなる環境マネジメントシステムに基づく環境保全活動を推進します。

第1表【消費収支予算書】(要約)

2009(平成21)年4月1日から2010(平成22)年3月31日まで (単位:百万円)

消費収入の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金	11,202	11,615	△ 413
手数料	716	654	62
寄付金	417	424	△ 7
補助金	1,518	1,570	△ 52
資産運用収入	393	396	△ 3
事業収入	198	215	△ 17
雑収入	499	410	89
帰属収入合計	14,943	15,284	△ 341
基本金組入額合計	△ 465	△ 2,731	2,266
消費収入の部合計	14,478	12,553	1,925

消費支出の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
人件費	8,260	8,169	91
(教職員等件費)	(7,824)	(7,889)	(△ 65)
(退職給与引当金繰入額)	(436)	(280)	(156)
教育研究経費	4,633	4,764	△ 131
(うち減価償却額)	(2,004)	(1,857)	(147)
管理経費	919	912	7
(うち減価償却額)	(176)	(148)	(28)
借入金等利息	31	40	△ 9
資産処分差額	521	11	510
徴収不能引当金繰入額	19	9	10
[予備費]	230	230	0
消費支出の部合計	14,613	14,135	478
当年度消費収支差額	△ 135	△ 1,582	
前年度繰越消費収支差額	△ 4,204	△ 2,622	
次年度繰越消費収支差額	△ 4,339	△ 4,204	

第2表【資金収支予算書】(要約)

2009(平成21)年4月1日から2010(平成22)年3月31日まで (単位:百万円)

収入の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
学生生徒等納付金収入	11,202	11,615	△ 413
手数料収入	716	654	62
寄付金収入	417	424	△ 7
補助金収入	1,518	1,570	△ 52
資産運用収入	393	396	△ 3
資産売却収入	800	699	101
事業収入	198	215	△ 17
雑収入	499	410	89
前受金収入	2,170	2,038	132
その他の収入	2,448	6,586	△ 4,138
資金収入調整勘定	△ 2,574	△ 3,071	497
前年度繰越支払資金	9,266	10,094	△ 828
収入の部合計	27,053	31,630	△ 4,577

支出の部			
科目	予算額	前年度予算額	増減
人件費支出	8,675	8,522	153
(教職員等件費支出)	(7,824)	(7,889)	(△ 65)
(退職金支出)	(851)	(633)	(218)
教育研究経費支出	2,629	2,907	△ 278
管理経費支出	743	764	△ 21
借入金等利息支出	31	40	△ 9
借入金等返済支出	172	172	0
施設関係支出	1,044	4,132	△ 3,088
設備関係支出	437	663	△ 226
資産運用支出	5,203	4,569	634
その他の支出	584	749	△ 165
[予備費]	350	350	0
資金支出調整勘定	△ 542	△ 504	△ 38
次年度繰越支払資金	7,727	9,266	△ 1,539
支出の部合計	27,053	31,630	△ 4,577